#### Matplotlib によるグラフ描画

本書籍のプログラムに出てくるグラフ描画の基本的な流れは図 A.1 のようになります。 原則、すべて「plt.関数名」の形でグラフ描画を行っていますが、2.7 節の Gaussian Hill 問題の可視化のみオブジェクト指向スタイル  $^1$ の描画になっています。

また、プログラム中の主な描画関数の引数やパラメータを表にまとめました。ここに載っていない情報は、Jupyter notebookの[Help] - [Matplotlib Reference]から Matplotlib のマニュアルページにアクセスできますので、必要に応じて参照してください。

 モジュールの読み込み import matplotlib.pyplot as plt



- ② 図のサイズ、文字の設定
  - 例) plt.figure(figsize=(7, 7), dpi=100) plt.rcParams["font.size"] = 25



- ③ 描画関数でプロットエリアにプロット
  - 例) plt.plot(t, h, color='blue')



- ④ グリッドやラベルの描画
  - 例)plt.grid(color='black', linestyle='dashed', linewidth=0.5) plt.xlabel('Time')



⑤ グラフの表示

plt.show()

図 A.1 グラフ描画の流れ

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> https://matplotlib.org/tutorials/introductory/usage.html#coding-styles

# 表 1 figure 関数の書式

書式	matplotlib.pyplot.figure(figsize=None, dpi=None)	
引数	figsize	図のサイズ(横サイズ [inch], 縦サイズ [inch])
	dpi	図の解像度(dots-per-inch)
戻り値	Figure	

### 表 2 レイアウト調整パラメータ

書式	matplotlib.pyplot.rcParams["パラメータ名"] = 値
パラメータ	"font.size":基本となるフォントサイズ

# 表 3 plot 関数の書式

書式	matplotlib.pyplot.plot(x, y, marker=None, color=None, linewidth=None,	
	linestyle=None, label)	
引数	x, y	x 軸, y 軸のリスト
	marker	マーカーの形状
		(例) 'o': 丸
	color	ラインの色
		(例)'red':赤
	linewidth	ラインの幅[pt]
	linestyle	ラインのスタイル
		(例)'solid':実線
	label	凡例に表示するラベル
戻り値	Line2D のリスト	

# 表 4 grid 関数の書式

書式	matplotlib.pyplot.grid(which='major', axis='both', **kwargs)	
引数	which	グリッドの種類
		(例)'major':主目盛線
	axis	グリッドを描画する軸
		(例)'both':x 軸 y 軸両方

color	グリッドの色
linestyle	グリッドの線種
linewidth	グリッドの線幅
aplha	グリッドの透明度

### 表 5 legend 関数の書式

書式	matplotlib.pyplot.legend(handles=None, labels=None, loc=None)	
引数	handles	要素(Artist)のシーケンス
	labels	ラベルのリスト
	loc	凡例の表示場所
戻り値	Legend	

#### 表 6 add\_subplot 関数の書式

書式	matplotlib.figure.Figure.add_subplot(nrows, ncols, index, **kwargs)	
引数	nrows	行数
	ncols	列数
	index	インデックス(左上隅の1から始まり行優先)
戻り値	Axes (またはその派生クラス)	

### 表 7 plot\_wireframe 関数の書式

書式	Axes3d.plot_wireframe(X, Y, Z, rstride, cstride)	
引数	X, Y, Z	2 次元配列のリスト
	rstride	行方向のストライド数
	cstride	列方向のストライド数